

ICTタスクフォース地球的課題部会 「夢のあるプロジェクト」例

図書街プロジェクト

コンセプター: 松岡正剛

全体リーダー: 金子

慶應大学

倉林修一、池田紀務

北海道大学: 田中譲

京都大学: 土佐尚子

編集工学研究所

NICT委託研究

H17~20

図書街とは何か

書物のもつさまざまな「つながり」

…人類の知的活動の知的資源としての書物に注目

本を手にとることによってさまざまなことを思い起こす

個々の書物が編集された「世界」／他の書物を引用 ～ ページの角を折る／書き込みをする

新入生に送る三冊／私の選んだ百冊／松岡正剛の千夜千冊

テーマやジャンル／著者／時代



三次元の「街」としてつながりを構造化・可視化

街の構造

書物／本棚／本棚の集まり／大小の道／広場など

トポス(場所の情報)

交差点／広場／大きい道／路地

本棚のデザイン

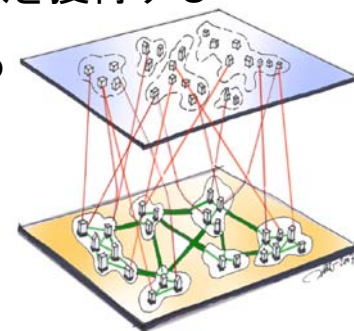
NOT: 現実社会の図書館のデジタル化

BUT: 「街」によって関係性を表現したバーチャル空間

図書館があると何ができるか

書籍の文脈とつながり → 情報が構造化された空間

- ◆三次元の直観的な構造を「体感」し、連想し、利用者の文脈に合った情報を獲得する
- ◆現実空間の情報(例: 京都観光)を図書館に対応させることによって新しい情報を獲得する
- ◆Webなど構造のない情報空間を図書館にマップすることで情報を構造化する



情報構造を利用して効率的・効果的な情報獲得を可能にする

通常のウェブ空間
フラットで構造がない

図書館 = 専門家の知識と、
書籍の文脈によって情報が
構造化されている

情報獲得がより効果的

図書館を利用した京都観光携帯ナビゲータ

図書館を利用した京都観光ナビゲータの構築

・・・現実空間を図書館空間に対応させることで文化的・歴史的な情報を獲得する

フル図書館空間



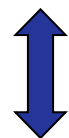
フル図書館との連動

京都図書館

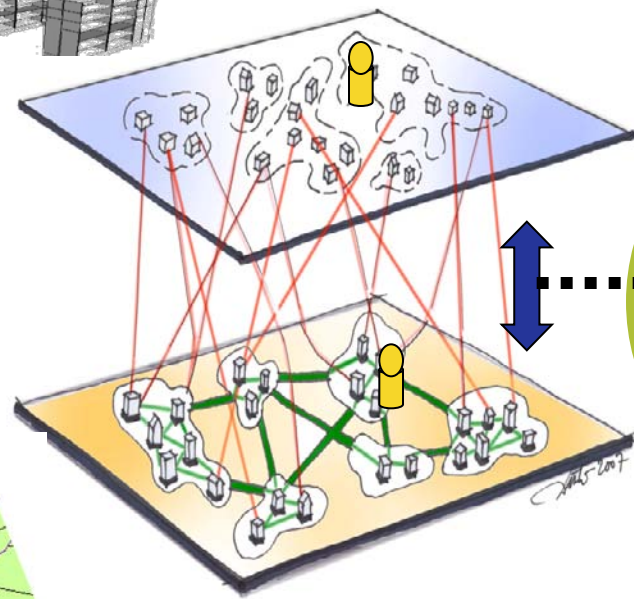


110観光スポット
1,500冊の京都関連書籍
150の本棚のデータ作成

情報空間



現実空間



携帯端末を使った
京都観光
ナビゲータ

アクティブ
ナビゲーション
モデル

パーソナル
「感性」ツール

利用者の「意図」と「状況」を計算し、その時その場所において最も必要とされる情報を、多様なDBから生成し提示する



京都観光データベース

花見小路から河原町へと歩く単なる市内観光が、図書街と連動したナビによって、花街の艶と京都画壇の粋をめぐる色っぽい旅に変わる。



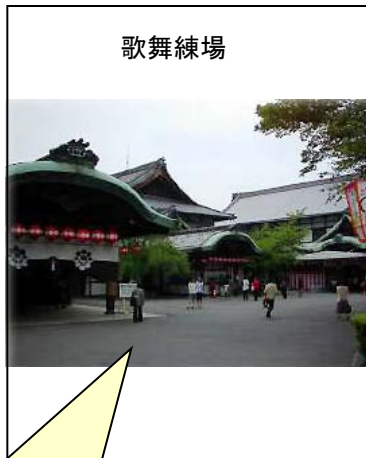
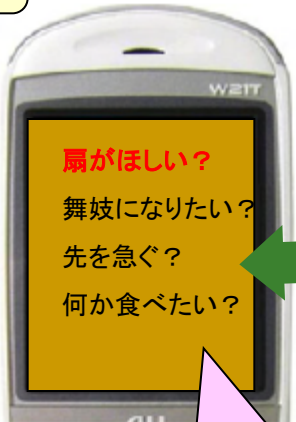
吉井勇を図書街で検索(千夜千冊に「吉井勇歌集」)

千夜千冊コーパスを利用して、図書街の関連書棚を連想検索

結果を本棚表示すると・・・「日本花街史」「おそめ」や北原白秋、石川啄木・・・

MIYAKO型の連想検索で簪(かんざし)の「つくし」にウツトリ

宮脇売扇庵へナビ



これまでの検索履歴から道中ナビ(欲望ジェネレーター)が次の行動をナビ

MIYAKO型の連想検索で京舞の舞扇の「しごと」に興味津々

「みやこ踊り」ってなんだろう?



宮脇売扇庵

おもわず扇を購入する

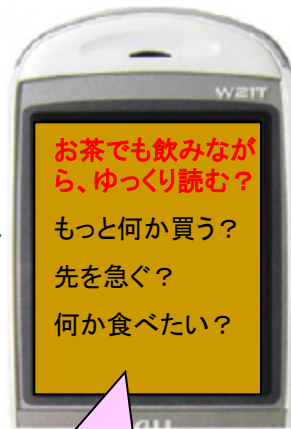
富岡鉄斎、竹内栖鳳らの天井画に感動。店の命名は鉄斎らしい



村松梢風
『本朝画人傳』
1972 中央

なおいっさいの世事・画壇とかかわらず、悠然と文人南画を描き続けて他の追随を許さない画境に達していたのに、本人は「絵よりも画中の詩文を読んでほしい」と言い続けてきた。おそらく、こんな人、もう日本に出ない
— 図書街『千夜千冊』

富岡鉄斎を図書街で検索
(千夜千冊に『本朝画人傳』)



お茶でも飲みながら、ゆっくり読む？
もっと何か買う？
先を急ぐ？
何か食べたい？

これまでの検索履歴から「道中ナビ」(欲望ジェネレーター)が次の行動をナビ



「イノダコーヒー」へナビ

イノダコーヒー



『本朝画人傳』
村松梢風
目次
菱田春草
奥原春湖
小林清親

『本朝画人傳』から関連書棚をたどってゆき、京都画壇に興味が連想していく...



鉄斎・栖鳳の絵が見たい？
先を急ぐ？
花見小路にもどる？

これまでの検索履歴から「道中ナビ」(欲望ジェネレーター)が次の行動をナビ



「京都市美術館」へナビ

半日時間調整のつもりが思いで深い旅になってきた



京都市美術館

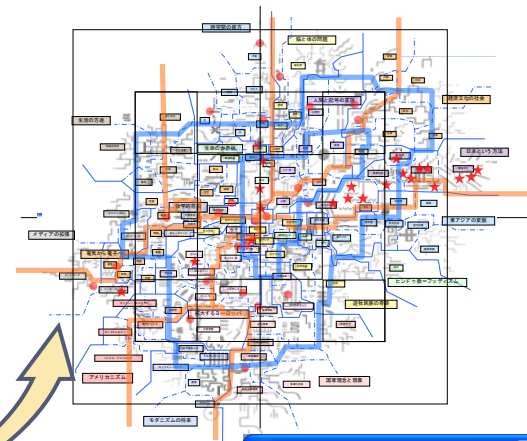
京都観光におけるアクティブナビの例

例1:「三冊の好きな本」からコンテキストを計算する



3冊の書籍によって形作られる文脈を、オンライン書籍販売の書誌情報と千夜千冊の書評を対象として重要キーワード抽出を行い、さらにそれらキーワードの図書街空間上の位置を求め、近隣の観光スポットを配信する

京都図書街空間



例2: 観光スポットの本棚から新しい発想を得る

南方録	南禅寺の至宝	水墨画の流れ	禅への鍵	禅画と日本文化	狩野派図画史	狩野探幽
-----	--------	--------	------	---------	--------	------

「禅」でアクティブナビ検索
⇒ 金地院、天龍寺、大徳寺などへ

「狩野派」でアクティブナビ検索
⇒ 二条城、知恩院、随心院などへ

書籍『禅への鍵』から龍安寺へ

書籍『南方録』から枯山水庭園を作った小堀遠州へ

更に関連の
テーマ・場所へ

京都観光ナビゲーター - Micr...

アドレス http://192.168.1.136/b

Google

種彩の虎が示す近世禅文化

1 2 Next >>

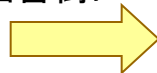
古寺巡礼京都 井ノ路、	南禅寺の名宝	禅への鍵	禅画と日本文化	水墨画の流れ	寛永文化のネット	狩野探幽	狩野派絵画史
		タイプ、		塚本 成	冷泉 為		武田 恒

室町時代の禅宗を代表した南禅寺は、応仁元年(1467)の戦災で主要伽藍を焼失。慶長10年(1605)、徳川家康の側近として外交・宗政政策を管轄した黒衣の宰相、以心崇伝(しんすうでん)が入寺して復興を始めた。南禅寺は崇伝が境内に建設した金地院が江戸幕府から臨濟宗の総元締役の「僧録」(そうろく)の地位を与えられ、絶大な権力を振るった。大方丈と小方丈からなる「方丈」は、その権威を今に伝える。大方丈は慶長の御所建て替に女院御所の対面御殿を下賜されたもので、成熟期の狩野派絵師の障壁画に飾られる。小方丈は寛永年間(1624~1644)の建築で、虎の間の40面の襖絵は狩野探幽作と伝え、方丈前の枯山水は小堀遠州の作庭とされ、「虎の子連しの庭」と通称される。その巨大な三門は庄巻で、歌舞伎「楼門五三桐」(さんもんごさんのきり)に石川五右衛門が見律を切ることで知られる。

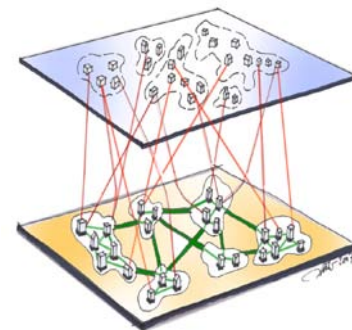
Web情報を図書館街にマップすることで「隠れた」関連を発見する

構造のないWeb上の情報の関連 ~ リンクを辿ることで発見する

図書館街にマップ



図書館の書段・本棚などの近傍系があるので容易に関連が発見できる



ウィキペディアと図書館街との比較例

■「紀貫之(古今和歌集、土佐日記, かな文字)」と「本居宣長(国学、いにしえごろ)」

Wiki

「日本の書家一覧」という書家一覧のリンク集を経由することでしか到達できない

図書館街

書籍「記紀神話のメタヒストリー」、書籍「源氏物語図典」が配置されている書棚にマップされる

■「紫式部(源氏物語)」と「永井荷風(断腸亭日乗)」

Wiki

相互に到達不可能

図書館街

書籍「徒然草」、書籍「メディア・スタディーズ」の近傍の書棚にマップされる